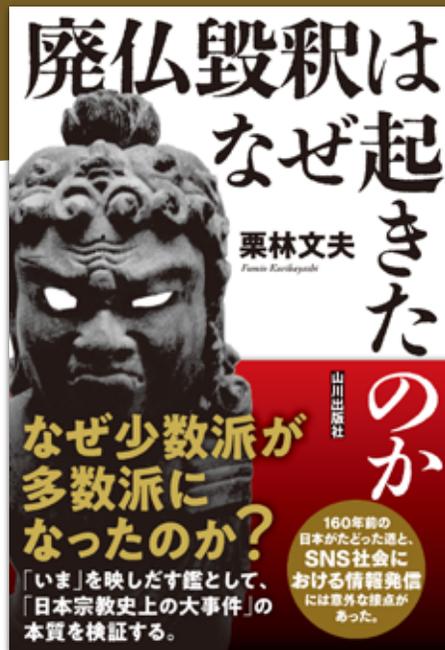


150年前の日本がたどった道と、  
SNS社会における情報発信  
には意外な接点があった。

# 廃仏毀釈は なぜ起きたのか

栗林文夫 著 (鹿児島県歴史・美術センター黎明館調査史料室長)

【著者略歴】 1964年生まれ。鹿児島大学法文学部卒業。広島大学大学院文学研究科博士課程前期修了。鹿児島国際大学非常勤講師、博士(文学)。著書に、『中世南九州の寺社と地域社会』(戎光祥出版、2022年)、編著に、『祈りのかたち～中世南九州の仏と神～』(2006年)、『甦る島津の遺宝一かごしまの美とところ一』(2010年)、『八幡神の遺宝一南九州の八幡信仰一』(2016年、いずれも鹿児島県歴史資料センター黎明館)がある。



※書影はイメージです

## なぜ少数派が 多数派と なったのか？

「寺院全廃」という、もっとも徹底された鹿児島県における出発点は、ごく一部の藩士たちの建議にすぎなかった。  
150年前の日本がたどった道と、SNSでの情報発信には意外な接点があった。  
「いま」を映しだす鑑として、「日本宗教史上の大事件」の本質を検証する。

## 目次

序論 なぜ鹿児島島の廃仏毀釈と向き合うのか

- (一) 明治鹿児島島の仏教と寺院
- (二) 現在まで引きずる大きな影

### 第一章 廃仏毀釈を知る

- (一) 思想的前提としての神仏習合
- (二) 廃仏毀釈とは何か
- (三) 薩摩藩の仏教事情
- (四) 薩摩藩における国学の隆盛
- (五) 藩主や藩士たちの宗教観

### 第二章 廃仏毀釈が徹底された理由

- (一) 幕末期の寺院整理
- (二) 廃仏毀釈の経過
- (三) 廃仏毀釈の諸問題
- (四) 各地の寺社で起きたこと
- (五) 市来四郎応答談話の問題点
- (六) 同時代の反応と評価
- (七) 廃仏毀釈が徹底された理由

### 第三章 神社にとっての明治維新

- (一) 幕末の神社創建
- (二) 招魂社の造立
- (三) その他の神社の整備

### 第四章 「全廃」からの寺院の復興

- (一) 「信仰の自由」の布達
- (二) 各宗派の復興

### 終章 廃仏毀釈とは何だったのか

- (一) 何が変わったのか
- (二) 廃仏毀釈の主要論点
- (三) 文化財保護制度の起点として
- (四) 未来に向けて——SNSの発達、再び寺院消滅

あとがき  
凡例、江戸時代薩摩藩の郡郷図  
主要参考文献

四六判 272頁 ISBN:978-4-634-59169-1 C0021 定価 2,200円(本体2,000円+税10%)

貴店番線印

新刊受注〆切  
3/11(水)

ご注文冊数

冊

(ご担当名: )



山川出版社 TEL: 03-3293-8131

※ご注文は、右記まで  
FAXをお願い致します

FAX: 03-3292-6469

※新刊配本に間に合いますよう、お早めのご注文をお願いいたします。